

登録コード	HM137400	開講年度	2026					
授業題目	発達精神病理学特論					担当教員	高橋 史 他	
英文授業名	Developmental Psychopathology					副担当		
単位数	2	講義期間	通年	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	1 年次	
講義室				授業形態	講義	備考		
信大コンピテンシー	非該当							
(1)授業の達成目標/Course objectives	ディプロマポリシー・授業で得られる「学位授与の方針」要素					(授業の達成目標)		
	2026HM医学分野加, 2025HM医学分野加, 2024HM医学分野加, 2023HM医学分野加							
	【研究科共通 2024年度以前加付対象】高度専門職業人・研究者として、科学・技術を発展させるための健全な倫理観					生活環境や社会構造が必ずしも理想的ではない状況で暮らしている人を傷つけることのない、安全・倫理的・建設的なディスカッションができるようになる。		
	【専攻】医学または保健学の研究に対する世界標準の専門分野における深い知識・卓越した技能					精神症状や行動問題を示す未成年について、発達の観点にもとづく支援計画および研究計画ができるようになる。		
(2)詳細 /Detailed information	人間の発達の軌跡と生物・心理・社会的要因との相互作用に関する理解を深めることで、未成年の患者とその家族のためのアセスメントの基礎技能および研究能力を高める。							
(3)授業の概要 /Overview of course	教科書の各章の概要について受講者が発表し、ディスカッションを行うことで、発達精神病理学の基本的知識を獲得する。また、発達精神病理学の最新の論文を購読することで、研究の方法論から最新の治療パラダイムまでを自ら学びとる習慣を身につける。							
(4)授業計画 /Course plan	第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：第 1 章 発達精神病理学とはなにか 第 3 回：第 2 章 精神病理の発達におけるダイナミックな過程の同定 第 4 回：第 3 章 発達精神病理学の方法論 第 5 回：第 4 章 発達における “ 道すじ ” ：発達の多元論について 第 6 回：第 5 章 影響の複雑なパターン：リスク因子と防御因子 第 7 回：論文購読（ 1 ） 子どもの発達に関する代表的理論 第 8 回：第 6 章 子どもの発達と親子のサブシステム 第 9 回：第 7 章 養育と子どもの発達に関する研究の新しい方向性 第10回：第 8 章 子どもの発達と夫婦のサブシステム 第11回：第 9 章 発達精神病理学の応用 第12回：論文購読（ 2 ） 科学的根拠の読み取り方 第13回：第10章 子どもの問題の診断・分類・概念化における発達精神病理学的な見解 第14回：第11章 予防と治療における発達精神病理学的な見解 第15回：論文購読（ 3 ） 子どもの診断と治療に関わる新しい知見 期末レポート							
(5)成績評価の方法・基準 /Grading/evaluation method/evaluation criteria	・担当章の発表内容および論文購読の内容：35%。 ・ディスカッション中の発言数：35%。 ・発達精神病理学に関連する研究計画をまとめる「期末レポート」：30%。 ・上記課題における受講者のパフォーマンスが、教員の指示や設問に対して一問一答形式で回答できる水準であれば「合格水準にある」、当該分野における 1 つ以上の追加情報をもって議論や計画を深めることができれば「やや上にある」、それに加えて他分野における 1 つ以上の追加情報をもって議論や計画を深めることができれば「かなり上にある」、それらの追加情報を統合して独創性のある支援計画または研究計画を立てることができれば「卓越している」と判断される。 ・得点率の合計による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。							
(6)履修上の注意・事前事後学習の内容・テキスト・教材・参考書/Notes/Prep work/Textbook(s)/Reference work(s)	・授業で話題に上った事例について、授業外で口外しないこと。守秘義務を意識すること。 ・以下の教科書を購入するなどして用意すること。 E.M.カミングス, P.T.デイヴィーズ, S.B.キャンベル (共著) 菅原ますみ (監訳) 発達精神病理学 - 子どもの精神病理の発達と家族関係 ミネルヴァ書房 ・授業は、教科書の該当章を事前に読み込んで授業に参加している前提で、該当章の解説をせずにディスカッションを開始する。また、ディスカッションにおいては、各自の意見の根拠となる文献について解説を求めることがある。教科書の読み込みおよび関連文献のチェックなど、十分な事前準備をしてから授業に臨むこと。							
(7)質問,相談への対応/Questions and requests for advice	高橋史研究室 (教育学部キャンパス東校舎 4 階 E406) オフィスアワー 木曜日13:00 ~ 14:30 TEL 026-238-4231 e-mail f_taka@shinshu-u.ac.jp							
(8)授業の形式 /Course format	講義および演習							